

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和6年度第4回）議事概要

日時：令和6年7月26日（金）10：30～12：00

場所：国立がん研究センター 管理棟 第一会議室 ※Webex 使用

出席者：中釜斉理事長、大島正伸理事、平沼直人理事、山内英子理事

本田麻由美理事、小野高史監事、近藤浩明監事

瀬戸中央病院長、土井東病院長

I. 前回（令和6第3回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・前回議事録署名人を山内理事と近藤監事に依頼。

II. 審議事項

1. KASHIWARP スパコン管理・運用計画・要綱（案）について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・外部への貸し付けについて、利用料金がリーズナブルに設定されているためアカデミアにとっては使いやすい。公共性を考えると、公共的な予算が入り、支援があってもよいと考える。
- 施設によっては交付金等が入ってくるようである。センター全体で考えていきたい。
- ・日本のみならず世界からアクセスがあるかと思う。ぜひウェブサイトを英語版でも構築いただきたい。
- 今回はSCRUM 関連団体の企業およびアカデミアのみが対象である。スパコンのサイズを考えると世界中からアクセスがあるとパンクしてしまう。増強、拡張していく原資があれば、国外からのアクセスも検討できる。安全保障上の問題等もあるが、世界や国内の状況を見ながら考えていきたい。現時点では限られた使用となるが、日本の国力増強につながると考えている。
- ・使用を SCRUM-MONSTER の関連団体に限るとのことであるが、具体的に何団体か。
- 企業は数十社、アカデミアは 70 施設ほどである。使用にあたっては、プロトコール審議となる。プロトコールが承認されると研究ができるという流れである。
- ・既に企業とアカデミアから引き合いがあると聞いているが、今後も広告等を出さなくても借り手が出てくるのか。
- センターのホームページにページを作る予定。データ自体は KASHIWARP の外に出せないが、解析サマリをダウンロードできる。
- ・よく検討いただいているが、トライアルな案件であるため、本部が収支を適切に管理すべき。
- 今月中に第1回のミーティングを開催し、検討していく。
- ・今後スパコンを使って様々な研究が進んでいくと思う。このような取り組みを一般国民にも分かる形で発信いただきたい。
- 今後相談させていただきたい。
- ・収益構造は精緻化が必要。

2. 統括管理副責任者の設置に伴う規程の改正について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・実験計画の確認は迅速にする必要があるため、統括管理副責任者が行えるようになることは良いことであると思う。

- ・従前の規程では、“室長に事故があるときは副室長がその職務を代行する”となっているが、今回“室長が不在の場合において”と変更されている。リーガルチェックの上で変更したのか。
- 文書決裁規程を参考にし“不在の場合”は“事故の場合”も含むと読めると判断した。

Ⅲ. 報告事項

1. 産学連携・知財戦略室の増員要望について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・必要な増員であると考え。今後企業との交渉が増えてくると思われる。そのようなことに対応できる人材が入ってくるとよい。
- ・契約書の確認や作成を行う AI の活用を検討してはどうか。
- 今後このような業務をサポートする AI の導入が進むと考えられる。AI を適切に使え、新しい時代に対応できる人材を見つきたい。
- ・医師が医師としての仕事に専念できるように、人材を確保し育てていくことが必要。
- 他施設へ人材を輩出する役目を担っていきたい。

2. 障がい者雇用率（令和6年6月1日）について

資料に沿って報告された。

3. 法人カードの導入及びテスト運用について

資料に沿って報告された。

4. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

5. 広報実績等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・プレスリリースの会見では、難しい問題でも意義のあるものを一般紙の記者にも説明いただいている。一般紙は、その日の社会や政治の動きによりすぐに記事を出せないことがある。今回のメディアセミナーのような機会をきっかけに、幅広いまとめの形で記事を出す等の報道の仕方も検討できる。ぜひ今後もお願いしたい。
- セミナーのフィードバックをいただき、より良いものにしていきたい。
- ・膵がん PET 画像診断の医師主導治験開始のプレスリリースについて、どのような症例を対象としているか。
- 今回は第 I 相試験で放射線医薬品の安全性を確認するものであり、対象は膵がんの疑いの高い患者とされているが、本検査では 3mm~1cm の微小病変の画像化が可能とされている。
- 一か所に放射線核種が集約されてしまうため周辺臓器への影響がある。海外では通常、1/10~1/20 の画像に写るか写らないかの線量で行うが、国内ではそのような治験体制が出来ていないため通常の治療域のものを行っていると思われる。本件は膵がんの試験に関するプレスリリースとも連動しており、このような連動した試験がセンターから出たことに大きな意味があると考えている。

6. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

7. 6月分医業件数等
資料に沿って報告された。